

3 休養・こころの健康づくり(案)(H.23.5.26版)

〈指標の達成状況〉

改善した	目標値に達した		
	目標値に達していない		
変わらない			
悪くなっている			

※各指標の達成状況については、別添シート参照

〈総括評価〉

○睡眠による休養を十分にとれない人の割合(減少)は目標を達成したが、ストレスを感じた人の割合や、睡眠の確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人の割合は悪化した。

○自殺者の数について大きな変化は見られなかった。性・年代別の自殺率では、高齢者の自殺率は高いが減少傾向があり、近年で働き盛り世代の自殺率が増加している傾向がみられる(など)。

□うつ病治療中の人の数、メンタルで休職中の人の数など、今後把握しなければならない指標の精査が必要ではないか。

□経済状況の影響やタレント等影響力のある人の自殺等の外部要因を踏まえて考察する必要があるのではないか。

□ストラクチャー、プロセス指標が設置されていないので、検討する必要があるのではないか。

〈指標に関連した施策〉

○健康づくりのための睡眠指針

○健康づくりのための休養指針

○自殺対策の推進(自殺対策基本法、自殺総合対策大綱)

健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.5.26版)

休養・こころの健康づくり分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野:休養・こころの健康づくり			
目標項目:3.1 ストレスを感じた人の減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年健康づくりに関する意識調査)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H20年国民健康・栄養調査)
成人 49%以下	54.6%	62.2%	61.3%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○策定時と比較して、ストレスを感じた人の割合は増加。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○「ストレスを感じた人」の割合は、この1ヶ月間「大いにある」、「多少ある」と回答した人を合わせた値となっており、「多少ある」と回答した者についても「減少」の必要があるかは検討が必要。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○策定時と比すると悪くなっていると評価。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<p>□特にどの世代が多いか、悪化しているかに言及し、その世代の対策を考えるべき。景気変動などの要素をどう考察に反映するか。こころの健康づくり分野では、取り組み目標が立てられていない。メンタルヘルス活動や地域の支え合い活動などの動きがどうなっているのかも言及したほうが良いのではないかと。</p> <p>□ストレスが「大いにある」と回答した人の割合も、性、年齢階級で層別化してH8年と比較すると、増加を示しており、悪化していると考えられる(H20年国民健康・栄養調査)。</p>		

分野:休養・こころの健康づくり			
目標項目:3.2 睡眠による休養を十分にとれていない人の減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年健康づくりに関する意識調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
成人 21%以下	23.1%	21.2%	18.4%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○減少している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標に向けて改善し、目標は達成した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> どの年代は改善して、どの年代がよくないのか、明らかにすべきではないか。 <input type="checkbox"/> 性、年齢階級で層別化してH8年と比較しても減少を示しており、改善していると考えられる(H21年国民健康・栄養調査)。		

分野:休養・こころの健康づくり			
目標項目:3.3 睡眠の確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことのある人の減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H8年健康づくりに関する意識調査)	中間評価 (H15年国民健康・栄養調査)	直近の実績値 (H19年国民健康・栄養調査)
成人 13%以下	14.1%	17.6%	19.5%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 <input checked="" type="radio"/> 増加している。 (男女とも年齢階級が高くなるほど使用割合が高くなる傾向にある)		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<input type="checkbox"/> 回答の集計方法が不明。H19年国民健康・栄養調査では、「睡眠薬・安定剤」と「アルコール」を分けて質問しているが、重複例をどのように扱ったのか。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<input checked="" type="radio"/> 策定時に比して悪くなっている。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 3-2と整合性が取れない。睡眠剤を使うからよく寝れる、という解釈にもなる。 <input type="checkbox"/> 目標が妥当であったか。睡眠を確保するために睡眠補助品を使用することは悪いことではないのではないか。		

分野:休養・こころの健康づくり			
目標項目:3.4 自殺者の減少			
目標値	策定時のベースライン値 (H10年人口動態統計)	中間評価 (H16年人口動態統計)	直近の実績値 (H21年人口動態統計)
全国数 22,000人以下	31,755人	30,247人	30,707人
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 <input checked="" type="radio"/> 3万人を超える状況が続いている。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<input checked="" type="radio"/> 中間評価時に、速報値を用いていたが、確定値が使用可能であり、全てデータは確定値でそろえた。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<input checked="" type="radio"/> 策定時に比して大きな変化はみられない(変わらない)。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 性・年代別の自殺率、原因(きっかけ)別などの分析を考察に加えてはどうか。うつ病治療中の患者数の変化、メンタルで休職中の人の数などのデータも合わせて考察をすべきではないか。		